

第1回 氷見市総合計画審議会 会議録		
日 時	令和2年9月25日（金） 13時00分から15時00分まで	
場 所	氷見市ふれあいスポーツセンター 会議室	
出席者	委 員	伊藤宣良、上田兵吾、河上昌俊、川田文人、河原朱里、菊川昌彦、佐伯三美子、櫻田惣太郎、清水賢一、瀬戸健、高木陽子、高木義則、高嶋達（代理：七分）、釣谷聡、寺下利宏、中西務、中村和之、西川扇博、野畑圭造、松井俊成、松波久善、松原勝久、森永章祥、猶明孝信、吉崎一美、脇信昭（出席26名）（欠席4名：尾畑納子、中村剛、西山知克、森本太郎）
	市関係職員等	林市長 策定委員会委員（篠田副市長、鎌仲教育長、高橋政策統括監、京田企画政策部長、藤澤総務部長、澤市民部長、森田産業振興部長、釣賀建設部長、森川防災・危機管理監、川淵会計管理者、大門教育次長、横山消防長） 事務局（高野地方創生推進課長、外5名）
次 第	1 開 会 2 市長あいさつ 3 審議会委員委嘱 4 審議会委員の紹介 5 市関係職員等の紹介 6 議事 （1）会長及び副会長の選出 （2）諮問 （3）第9次氷見市総合計画の策定について （4）氷見市の現況等説明について （5）意見交換について 7 その他 8 閉 会	
資 料	【説明資料】 資料1 氷見市総合計画審議会委員名簿 資料2 氷見市総合計画審議会条例 資料3 氷見市総合計画策定委員会委員名簿 資料4 第9次氷見市総合計画の策定について（案） 資料4-1 策定体制について（案） 資料4-2 策定スケジュール（案） 資料5 氷見市総合計画審議会部会の設置について（案）	

資料5-1	氷見市総合計画審議会部会設置要綱（案）
資料6	氷見市人口ビジョン概要版
資料7	市民意識調査の結果概要
	【参考資料】
冊子	市民意識調査結果
冊子	基礎調査結果
冊子	第2期氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略
冊子	氷見市の統計

## 1 開 会

（司会）

定刻となったので、第1回氷見市総合計画審議会を開催する。  
審議会の会長が選出されるまで、進行をつとめさせていただきます。

## 2 市長あいさつ

（市長）

皆様には多忙にかかわらず、ご出席いただき、また、日頃から市政の各分野において、尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

令和4年度から始まる第9次氷見市総合計画を策定することから、氷見市総合計画審議会委員をお願いしたところ、快く引き受けいただき、感謝申し上げます。

平成24年度からスタートした第8次氷見市総合計画においては、目指す都市像を「人 自然 食を未来につなぐ交流都市ひみ」と定め、厳しい財政状況の中、多様化する課題への的確かつスピーディーな対応など必要な政策事業を推進してきた。

後期基本計画策定から2年が経過し、平成29年度から就任し、特に力を入れてきた子育て施策については、満1歳以上児の第2子以降の保育料の無償化などの子育て世帯への経済的支援の拡大を継続すると共に、子どもの遊び場が少ないという声を受けて、海浜植物園に屋根付きふわふわドームの整備や木育ルームの整備、朝日山公園での大型遊具の整備などに現在取り組んでいる。また、新文化交流施設の整備については、令和4年7月を工期とする建設工事の契約を先般締結した。

まちなか回遊向上に向けた新交通システムの実証実験が明日スタートする。また、まんがロードの延伸の他、今年度から配置した中心市街地の賑わい創出を担うエリアマネージャーと併せハードおよびソフト両面での氷見のまちなかランドデザインに基づく街づくりを推進している。

しかし、若年層の進学、就職等に伴う市外への人口流出に歯止めがなかなか掛かっておらず、また、出生数が引き続き減少傾向にあるなど、人口減少や高齢化の進行速度は、更に厳しい。

人口減少によりおこりうる地域社会や地域経済の衰退などの重要課題にスピード感を持って、切れ目なく対応し、若者や女性を始め多様な世代がいきいきと住み、働き、子育てできる地域づくりに取り組むため、本年3月に策定をした第2期氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、住みたい街、働きたい街、育てたい街の3つの柱を基本戦略として、人口減少対策や人口が減少したとしても市民の皆様が幸せに暮らせる街づくりの推進をしている。

昨年12月以降、中国を始め世界各地において、感染が確認された新型コロナウイルスについては、東京都を始め大都市圏を中心に地方でも増加傾向にあった新規感染者数がここ最近は落ち着きをみせており、感染拡大の速度や規模を抑えるための徹底した対策のほか、今後はコロナとの共生いわゆる **with** コロナ、アフターコロナの時代を見据えた取組も求められている。

このような状況下において、幸い氷見市には先人から受け継がれた歴史や文化、自然環境、人の絆、そして、氷見寒ブリに代表される豊かな海や山の幸といった地域資源にも恵まれており、世界農業遺産登録に向けたチャレンジも行っている。

今回策定する第9次氷見市総合計画は、これらを活かすべく市民の力を結集し、街づくりの大きな柱となる市民が夢と希望を持てるような計画にしたいと考えている。

本日から来年度にかけての長期間の審議会の開催にはなるが、氷見の未来が輝かしいものとなるように力添えを頂くことをお願い申し上げます。

### 3 審議会委員委嘱

委嘱状を机上配布

### 4 委員の紹介

座席順（50音順）に紹介

### 5 市関係職員等の紹介

庁内策定委員名簿を机上配布

### 6 議事

#### (1) 会長及び副会長の選出

(事務局)

本協議会の委員は30名で、氷見市総合計画審議会条例第5条第2項に規定する会議開催の定足数16名を満たしていることを報告する。

氷見市総合計画審議会条例第4条第1項に「審議会に会長及び副会長を各1人置き、委員の互選によって定める。」とあるが、いかが。

(委員)

事務局一任

(事務局)

承認があれば、事務局の案を提案したい。

(委員)

拍手で承認

(事務局)

事務局の案を提案させて頂く、会長は富山大学副学長の中村委員、副会長は氷見市自治振興委員連合会長の猶明委員を推薦したい。

(委員)

拍手で承認

(事務局)

承認頂いたので、中村会長、猶明副会長には、会長席、副会長席に移動していただき、あいさつをお願いしたい。

(会長)

総合計画は市の中でも最上位の計画であり、我々に課された責任は重たいと考えている。皆様の知恵を借りながら、より良いものを作って参りたい。

今後10年を見越した計画であるが、新型コロナウイルス感染症拡大の中で10年後を見越すのは、なかなか苦労が伴う作業である。

氷見市は、豊かな資源を持つ大変素晴らしいところ。一方で、人口が減少するという中で氷見市をどのように支えていくか、より豊かにしていくかということは、皆様の知恵無くしてはビジョンを描けないものと考えている。

皆様の協力を頂き、進めて参りたいと思う。よろしく願います。

(副会長)

今回の第9次総合計画においては、市民が分かりやすく、また、市民が目指す都市像を皆様と一生懸命取り組んでいきたいと思う。皆様の協力をお願いする。

## (2) 諮問

氷見市総合計画審議会条例第1条の規定に基づき、市長から会長に第9次総合計画の策

定について諮問する。

(市長から中村会長に諮問書を手渡した。)

### (3) 第9次氷見市総合計画の策定について

(事務局)

氷見市総合計画審議会条例第5条第1項の規定に基づき、会長に議事進行をお願いする。

(会長)

次第に沿って、進めさせて頂く。

氷見市総合計画の策定の進め方について、事務局から説明をお願いします。

(事務局から「資料4 第9次氷見市総合計画の策定について(案)」、「資料4-1 策定体制について(案)」、「資料4-2 策定スケジュール(案)」、「資料5 氷見市総合計画審議会部会の設置について(案)」の説明)

(会長)

質問等があれば、承る。

(質問等なし)

次に進めさせて頂く。

今ほど、事務局から説明があった資料の5-1、氷見市総合計画審議会部会設置要綱(案)というものがある。要綱(案)について事務局から説明願う。

(事務局)

(「資料5-1 氷見市総合計画審議会部会設置要綱(案)」について説明)

(会長)

質問等があれば、承る。

(質問等なし)

要綱の改正案についてお諮りしたい。

(拍手で了承)

(会長)

要綱の第3条第2項では、部会長、副部会長及び部会委員は、氷見市総合計画審議会(以下「審美会」という。)委員の中から審議会の会長が指名した委員をもって構成する。と明記されている。この場で、部会長及び副部会長、部会委員を指名させて頂く。

事務局から各部会の部会長及び、副部会長、委員の名簿を配付させて頂いた。このような形で進めさせて頂きたいので、お願いします。

#### (4) 氷見市の現況等説明について

(会長)

議事の(4)氷見市の現況等説明に入る。事務局から説明をお願いします。

(事務局より、「資料6 第2期氷見市人口ビジョン概要版」、「資料7 市民意識調査の結果概要」の説明)

#### (5) 意見交換について

(会長)

ここからは、皆様から意見を頂きたい。ぜひ、発言、意見をお願いします。一人1分程度で、意見、質問等をお願いします。それでは、順番をお願いします。

(委員)

あらためて人口減少の状況について考えさせられた。大変な審議会の委員になったという気持ちである。アンケートにも多種多様な意見があるが、子どもを増やして、高齢者が住みやすいまちにしたいという想いは同じであるから、我々も真剣に考えていい案を出せるよう努力していきたい。

(委員)

「市民意識調査の結果概要」の結果の中に「ICTを活用した教育の推進」があるが、子ども達の教育に活用してもらえたら良いと思う。一方でICT教育の良いところばかりを教えるのではなく、危険性についても同時に教えてほしい。それから、人口減少の説明を聞いて、タブレットがいずれ子どもの数よりも多くなっていくのではと危惧している。

(委員)

先ほどの話しにあったが、スポーツの世界も少子化がかなり進んでいて、学校でも部活動が成立しない、やりたい部活がない等人口減少に伴い、学校現場でもいろいろな問題が出ている。それに対してやりたい競技をやる環境づくりを考えていかなければならない。他市でもしているが、学校で部活動をするのでは無く、クラブチーム化等であることを考えていったら良い。少子高齢化については、高齢者に元気がでるようなまちづくり、子育てしやすいまちづくりを目指し、自分にできることを協力させて頂きたい。

(委員)

今後10年は氷見市のみならず日本においても厳寒期の時期。人口減少や社会のデジタル化など大きな流れがある。状況の変化に応じてローリングの中で柔軟に見直していくことが大事。また、実効性を高めるため、KPIなどの検証できる仕組みも入れていくべき。そして、十分な成果を出す時は市民の参加が鍵を握る。先程の説明の中に36.6%の人が総合計画を知らないという残念な結果があった。どれだけ市民の方を巻き込んで計画を進めていくことができるかが必要。市民にやる気を出してもらわないと単なる計画で終わってしまう。市長のまちづくりふれあいトークなどいろいろな場面で説明頂き、計画づくりから

参加して頂いて、結果的に氷見市に住んでいて良かったと思えるようなまちになれば良い。

(委員)

「市民意識調査の結果概要」(4)の教育・文化の振興についてですが、「郷土の良さを知り、郷土を愛する教育の充実」ということで、生徒に氷見市の良さを問いかけると答えが出てこないということを現場にいて感じている。郷土の愛着の部分で氷見市にある課題を学んでもらった上で、実際に社会に出た時にどう活躍するのかを、雇用が無いあるいはあっても知られていないというのが現状。雇用を求める声が60.0%となっていたので、できることを考えながら総合計画に携わっていきたい。

(委員)

現状をみて、安心して子どもを産み育てられるのか、子どもの医療費の事などの意見があった。私の周りには同年代で結婚していない人がたくさんいる。それぞれの人生があるので、結婚は強要することはできないが、子どもを産み育てやすい環境を創出すると共に結婚につなげる取り組みも必要ではないかと思う。

(委員)

たくさんの方々が氷見市に来て頂いて、食や環境の良さを感じて頂きたい。今、新型コロナウイルス感染症拡大により、たくさんの方に来て頂くことができない状況ではあるが、また、氷見市に来て頂いて氷見市の魅力を体験して頂き、氷見市に住みたいと感じて頂きたいと思う。氷見市に住みたい人と希望する人が増えて、転出者よりも転入者が多くなってほしいと思う。皆でがんばって氷見市を素晴らしい市に創り上げていきたい。

(委員)

仕事から、氷見市のビジネスサポートセンター長やエリアマネージャーとお話する機会があるが、少子高齢化が進むのであれば、シルバービジネスに特化させ、他の高齢者が氷見市に来るぐらいのインパクトがあることができないかと思う。高齢化をマイナスと捉えず、来るものは受け留めて、それを更なるチャンスにして施策に反映させていくのが良いと考える。

(委員)

地域の中に子どもの話し声が聞こえるようなことがあれば地域の人達は元気が出る。氷見市内の小学校を数校見させて頂いた。氷見市内の小学校の先生方の実践力は非常に高く、様々な挑戦をされているので、ここから質の高い教育を得られると期待をしている。一方で先生方がこれだけがんばっているということを若い保護者の方々は知らない。私は上越教育大学に20年おりましたが、その環境からみても氷見市の先生方は質が高い。氷見市の教育は他には無い教育であるということを氷見市に住んでいる人達は知ってほしい。このことで、若夫婦の足が氷見市に止まって、人口が増えていくことを期待している。

(委員)

婦人会には、新しい方が入ってこないなので、存続が厳しい状況である。役員の年齢が上がっていき、後何年がんばれるのかというのが現状。

「市民意識調査の結果概要」を聞いて、氷見市に観光客が来てほしいという意見が減っていることが分かり、驚いている。皆で氷見市を売り出している一方で市民はそうではない感情をもっているのかと疑問に思った。氷見市の学校給食で地産地消を望む声が少なくなっていることにも驚いている。生産者も高齢化が進み営農組合も若い人が入ってこなく、存続の危機に瀕している。このことも氷見市でぜひ考えていってもらいたい。

(委員)

「市民意識調査の結果概要」の問9ですが、「市内の産科施設の維持・確保」が回答の2位である。これは初めての選択項目なので、増えたのか、以前から希望があったのか見えないが、2位になっている。5位の「小児救急体制の充実」が前回調査から17%以上も減っている。「市内の産科施設の維持・確保」を望む一方で、「小児救急体制の充実」がすごく減っていることには何か理由があるのではないかと思うが、何か考えられることはあるか。

(会長)

事務局、いかが。

(事務局)

今回の回答者ですが、年齢構成の高い方の回答が多くなっていることで、子育て世代の30歳代、40歳代、50歳代の回答が少なかったことが、「小児救急体制の充実」の割合が減ったと考える。一方で、「市内の産科施設の維持・確保」は、全世代での共通の想いであったと考えられ、回答できる数も限られていることから、こちらが選択されたと推察する。

(会長)

アンケートは属性の違いなど様々な面で結果が変わってくるので、その辺りを添えて説明頂くと良いと思う。

(委員)

「市民意識調査」の回答率が50.5%と前回より、12ポイントほど下がっているが、原因はどこにあるのか知りたい。回答者は60歳代以上が3分の2を占めているので、若い人の意見を聞く方法が他にないのか、これからの市長のまちづくりふれあいトークや各種団体の意見聴取等で若い人の声をもっと拾って頂ければと感じている。

氷見市は大学との連携で様々な施策を進めているが、福祉系の大学とも連携を進めてほしい。

(会長)

アンケートの回答率の低下について、事務局で検討いただきたい。

(委員)

計画期間ですが、実施計画を5年間と定めて、毎年見直すという提案でした。今回のように新型コロナウイルス感染症拡大ということもあるので、毎年見直しをすることは良いことだと思う。その時代に応じた施策を変更・追加することは必要。

「市民意識調査の結果概要」、中心市街地についてですが、「住む人にも訪問する人にも魅力的と感じられる街並みや空間があるまち」が37.0%となっているが、道路整備や河川



整備の参考にできると感じた。

(委員)

あらためて、氷見市、市民を含めて選ばれる市を明確に目指していかなければならないと感じた。基本構想の中に氷見市の良さが明確に伝わる都市像というものを書き込んだ方が良かったと感じた。第8次総合計画では、「人、自然、食を未来につなげる交流都市ひみ」と掲げており良いと感じていた。これを踏襲しながら、更に人や自然、環境に優しいという部分が氷見市の良さであると思うし、更に安全・安心ということも選ばれる市の重要なポイントだと感じた。人の生きる部分、住み良さという部分をもっと明確に都市像として表して氷見市をアピールすることが大事。その上で計画を組んでいくことが選ばれる市になると感じた。

(委員)

若い人がいろいろチャレンジできる市であってほしいと思う。失敗を恐れずにチャレンジできることが氷見市であってほしい。若い世代が氷見市の新しい魅力をつくっていきける希望溢れる市になっていけたらと思う。私は子どもが4人いる。その子ども達は氷見で学び、氷見で暮らして欲しいと思う。安全・安心という点で氷見市は治安が良い。その点をもっともっと打ち出して頂いても良いのかなと思う。

(委員)

氷見市には、芸術・文化に携わっている方がたくさんいる。氷見市民会館が6年近く使えない状態でしたが、2年後に新文化施設が建設されるので、すごく期待している。新施設ができるいろいろな人が足を運ばれて、人がたくさん集うところになるので、先が明るくなる。とっても期待しているので、よろしく願います。

(委員)

第9次の氷見市総合計画が達成されて、すばらしい氷見市になることを願ってやまない。ただ、最終的には、人口問題だと思う。他に移りたいという意見があることは非常に気にかかるところである。若い人が氷見市に留まってくれる環境整備、条件整備をこれから真剣に考えていかなければならないと思う。

(委員)

農業に関しましては、中山間地が多いので、大規模化あるいは集約は非常に難しい。一方で国の新しい計画の中では、多様な形態で、農村を維持しようということが一つのトレンドになってきている。氷見市においては、スマート農業を取り入れるなど地域のポテンシャルが非常に高い。林業に関しては、更なる大きなポテンシャルを秘めている地域。中山間地域の農業や林業に若い人の参加を望むところである。大きな人口を望む中では、小さなことかも知れないが、農業、林業の魅力も大きく発揮してほしい。持っているポテンシャルを引き出せる計画ができれば良いと考える。

(委員)

現在、癌は2人に1人がかかり、3人に1人が亡くなっている。亡くなる人の年代を見る

と40歳代から60歳代の働き盛りの人である。氷見市でがん検診は4月から7月に行われているが、これを1年通して受けられるようにして頂きたい。また、不妊治療に助成金を出して、子どもを増やすためにも不妊治療に力を入れるべきだと考える。

(委員)

氷見市の全国的な発信をお願いしたい。ドラマなどの誘致についても副市長に期待をしている。アンケートには子育てのこと、食のこと、働くこと等、様々な質問があるが、どの項目も最終的には魅力あるまちになれば人は住んでくれるということから考えると指針になるもの、目指す都市像というものをもっと具体的に示す必要がある。安全・安心で働きやすく、育てやすい魅力ある氷見の創造とすれば、全てのベクトルが1本に動ける気がする。目指す理想をつくりそれに向かって動いていけば間違えのないものができると思う。

(委員)

氷見市の治安向上に努め、市民の皆様が安心して暮らしていける環境づくりに協力していきたいと思う。仕事から、富山県内を転々として過ごしてきた。その中で氷見市は一番自然景観がすばらしいと感じている。私が協力できることがあれば協力させて頂くので、よろしく願います。

(委員)

氷見市内に母子保健推進委員は41名いるが、ここ数年、訪問する家庭が減ってきていることを実感している。また、最近訪問して思うのは、若い夫婦は生活のため共働きをしており、また、核家族化から子どもが1歳になると幼稚園に入園させる方が多い。幼稚園に入園している子は氷見市の地域子育てセンターに遊びに行くことができないので、幼稚園が休みの週末に遊びに行くところがないのが現状。海浜植物園にふわふわドームができたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人数制限がかかっており、十分に活用できていない。訪問する家庭では一人っ子は少なく、2人、3人と子どもがいる家庭が多く、少子化の原因は未婚だと感じている。先程の話しでも人生の価値観はいろいろなので、結婚を強要することはできないが、子どもを持つ人生も楽しいということを知ってほしい。それをどのようにメッセージとして伝えたら良いのか考えていきたい。

海越しの立山が見えるすてきな場所が氷見市なので、その景観を眺めながらコーヒーなどが飲める場所があったら良いと思う。

(委員)

氷見市には富山県内の竹林面積の約半分がある。イノシシの餌になる孟宗竹がたくさんあることから鳥獣被害にもつながる。森づくり事業などで皆伐して頂いておるが、追い付いていないのが現状。管理が行き届いている竹林は電気柵などの対策を取っているが、管理が行き届いていないところは何の対策もしていないので、そういうところは皆伐してイノシシの餌になるものを無くして、対策していけば良いと考える。ぜひ、総合計画の中で取り入れて頂きたい。

(副会長)

先程からの説明を聞いて、人口減少問題を痛感している。若者が集まる街づくりをしていかなければならないと強く感じた。各委員から教育の問題、治安の問題、観光などのお話しをして頂いた。氷見市の自然、景観などの魅力を全面的に打ち出していきながら、少しでも県外、市外から来て頂く方法を皆様と考えていきたい。空き家バンクの登録に取り組んでいる。その点も全面的に協力しながら、努力していきたい。

(会長)

ありがとうございます。本日1回目で、皆様から意見を頂いたが、時間の関係で充分話しできなかったり、質問できなかったりすることがあったかも知れません。その場合は、随時事務局にお寄せ頂ければと存じる。

次回は、部会に分かれて進めて頂くことになる。

本日の議事はこれで終了した。この後の進行は事務局にお任せる。

## 7 その他（事務連絡）

(事務局)

会長、ありがとうございました。今後の日程について連絡する。資料4-2でも示したとおり、11月に部会を開催したいと思う。日程等については、部会長と相談して皆様の日程等も聞いて、決めていきたいと思う。

第2回の審議会を2月中に開催を予定しておるので、よろしく願います。

## 8 閉会

(事務局)

それでは、閉会にあたり、市長から皆様に挨拶申し上げます。

(市長)

本日は、長時間にわたり、それぞれの立場から意見を頂いた。子育て、教育、水産業、街づくりなどいろいろなことから氷見市の課題がまたは氷見市の良いところの意見をいただいた。次回は、各分科会で深掘りして意見を聞かせて頂きたい。

今後、皆様方の意見を次期の総合計画に反映するよう取りまとめていく。市民が希望の持てるそして、ワクワクするような計画づくりを行っていく。委員の皆様におかれましては、今後も協力賜るよう、お願い申し上げます、閉会の挨拶とさせていただきます。

(事務局)

以上で、第1回氷見市総合計画審議会を閉会する。ありがとうございました。